ケース15　大洲手すき和紙の技術とフランス伝統のギルディング技法が融合

キーワード：ベンチャー企業　商品開発　Ｉターン　ＪＡＰＡＮブランド

1　学習内容

地域の地場産業発展を目指すビジネスの取組

2　学習目標

地域産業発展を目指すビジネスの取組事例の考察を通して、その特徴や在り方について理解する。

3　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「ビジネス経済応用」

⑸　ビジネスの創造と地域産業の振興

ウ　地域ビジネス事情

身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を行わせる。また、その結果を基に、地域産業の振興のための具体的なビジネスアイディアの考案、その実現方策の立案及び地域や産業界への提案をする実習をさせるとともに、地域産業の振興への寄与の在り方について考察させる。

「マーケティング」

⑹　販売経路と販売促進

ア　販売経路

販売経路の種類と特徴について理解させる。また、販売経路の決定に関する具体的な事例を取り上げ、販売経路の設定、強化及び効率化が顧客満足の実現や価格に及ぼす影響について理解させる。

「商品開発」

⑴　商品と商品開発

ア　商品の多様化

商品が有形財だけでなくサービスや権利なども含めたものであること及び技術革新や経済の国際化などによる多様な商品提供の現状について理解させる。

「広告と販売促進」

⑸　販売促進の発展と顧客満足の実現

ア　時代に応じた販売促進

ダイレクト・マーケティングや電子商取引など時代に応じた販売促進の意義や課題について、具体的な事例の考察を通して理解させる。

4　評価の観点

・「ＪＡＰＡＮブランド育成支援事業」について理解している。　【知識・理解】
・五十崎社中の商品開発の工夫について理解している。　【知識・理解】
・商品の魅力化、ブランド力の育成について考え、自分の意見として表現している。　【思考・判断・表現】

事例　ケース15　大洲手すき和紙の技術とフランス伝統のギルディング技法が融合

プロフィール　企 業 名：株式会社五十崎社中
所 在 地：愛媛県喜多郡内子町五十崎甲1620-3
設　　立：平成20年７月
資 本 金：300万円
事業内容：手すき和紙製品の製造、販売
企業概要：　愛媛県内子町五十崎地区の伝統産業手すき和紙。手すき和紙を加工した商品の製造販売を行っている。現代様式にあった和紙商品を提案し産業の発展及びまちおこしへの貢献を目指している。フランスの伝統技法「ギルディング（金属箔施術）」と手すき和紙を融合させた商品はオンリーワンの技術。JAPANBRAND登録事業者として創業。フランスの国宝技術者ガボー・ウルヴィツキ氏直伝のギルディングを使った手すき和紙商品を製造するのは、世界で五十崎社中のみ。

元ＳＥを魅了した日本とフランスの伝統の技

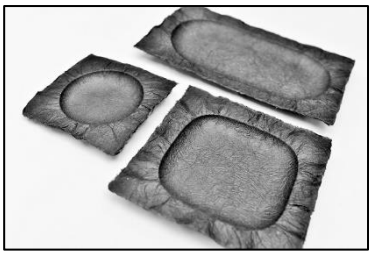
代表取締役の齋藤宏之さんは、平成20年、13年間勤務したシステムエンジニアの職を辞して奥様の地元である内子町五十崎にＩターン。全国商工会連合会や日本商工会議所が中心となり、伝統工芸品を世界に通じるサービスにするため立ち上げた〝ＪＡＰＡＮブランド〟に取り組む内子町商工会に共鳴。伝統的工芸品である大洲和紙の世界進出に貢献できたらと、平成20年７月に会社を設立。師と仰ぐフランスのデザイナー、ガボー・ウルヴィツキ氏を内子町に招待し、２年間、大洲和紙と金属箔加工技術・ギルディングを融合させた新たな和紙加工品の試作を重ね、世界に一つの「ギルディング和紙」の商品化に成功した。

伝統的工芸品〝大洲和紙〟大胆な発想で商品開発に挑む

大洲和紙の手すき和紙製造販売元・天神産紙工場から和紙の供給を受け、その和紙にギルディングを施し、壁紙やタペストリーなどの大型の商品から、小物やステーショナリーなどの小さなものまで幅広く製造する。一枚ずつ丁寧に手すきされた和紙に専用の糊をつけ、金属箔を叩きこみ、コーティングやプレスなどを施す工程のほとんどが手作業による製造で、インテリア素材としての価値も高い。伝統工芸としての技や趣を大切にしながらも、若手デザイナーのデザイン型を使用するなど、若い女性層の開拓にも力を注ぐ。女性向けのアイテムとして開発された「楚々」シリーズは、ポチ袋や和綴じ帳、泡紙風船などに蛍光色やポップなカラーを使用し、普段から和紙に慣れ親しんでもらいたいと商品化されたもの。〝手すき和紙〟をキーワードに、伝統工芸の枠におさまらない自由な発想から生まれた世界に通用する品だ。

世界唯一の技法を武器に和紙の新たな使用方法を提案

平成26年、日本の手すき和紙技術として和紙がユネスコ世界無形文化遺産に登録されたのをきっかけに、和紙が見直され、新たな利用方法が広がると思われる。和紙に新たな息吹を吹き込んだ「ギルディング和紙」の壁紙を中心に、インテリア業界へも和紙のＰＲを進める計画だ。さらに平成27年５月から開催されたミラノ万博へも出品。世界唯一の技法に注目が集まった。



（参考Ｗｅｂ）「愛媛が誇るスゴVen. -愛媛発！ベンチャー企業「スゴVen.」データベース-」
〈https://www.pref.ehime.jp/h30800/sugoven/documents/p8ikazakishachu.pdf〉

2016/6/24 資料作成

ワークシート

ケース15　大洲手すき和紙の技術とフランス伝統のギルディング技法が融合

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「ＪＡＰＡＮブランド育成支援事業」の事業概要や支援内容について調べなさい。

【知識・理解】

【事業概要】

【支援内容】

2　伝統工芸品である大洲和紙を用いた商品開発において工夫していることを挙げなさい。

【知識・理解】

3　伝統芸能や伝統工芸品を世界に通用するブランドとして発展させていくためにはどのようなアイディアが考えられるか述べなさい。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース15　大洲手すき和紙の技術とフランス伝統のギルディング技法が融合

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「ＪＡＰＡＮブランド育成支援事業」の事業概要や支援内容について調べなさい。

【知識・理解】

【事業概要】

中小企業の新たな海外販路の開拓につなげるため、複数の中小企業が連携し、自らの持つ素材や技術等の強みを踏まえた戦略の策定支援を行うとともに、それに基づいて行う商品の開発や海外展示会出展等の取組に対する支援を実施する。

支援対象は商工会、商工会議所、組合、NPO 法人、中小企業者（４者以上）等。

【支援内容】

地域の産品や技術の魅力をさらに高め、世界に通用するブランド力の確立を目指す取組に要する経費の一部を補助。

（戦略策定段階への支援）補助率：定額、補助上限額：２００万円

地域の強みなどを分析し、明確なブランドコンセプトと基本戦略を固めるため、専門家の招聘、市場調査、セミナー開催などを行う取組に対して支援を実施。

（ブランド確立段階への支援）補助率：２／３、補助上限額：２，０００万円

中長期的な視野に立ったブランド確立への取組を支援するため、専門家の招聘、新商品開発、展示会出展等を行うプロジェクトに対し、最大３ヵ年に亘って支援を実施。

2　伝統工芸品である大洲和紙を用いた商品開発において工夫していることを挙げなさい。

【知識・理解】

・伝統工芸としての技や趣を大切にしながらも、若手デザイナーのデザイン型を使用するなど、若い女性層の開拓にも力を注ぐ。
・女性向けのアイテムとして開発された「楚々」シリーズは、ポチ袋や和綴じ帳、泡紙風船などに蛍光色やポップなカラーを使用し、普段から和紙に慣れ親しんでもらえるような工夫。
・〝手すき和紙〟をキーワードに、伝統工芸の枠におさまらない自由な発想。

3　伝統芸能や伝統工芸品を世界に通用するブランドとして発展させていくためにはどのようなアイディアが考えられるか述べなさい。

【思考・判断・表現】

各自の考えを述べることができている。